

キベリハムシ研究史

高橋寿郎原著・兵庫昆虫同好会編

研究史

この報文は、キベリハムシをこよなく愛し、造詣が深かった故高橋寿郎氏が、ご自身の長年のキベリハムシ研究の集大成として、鋭意まとめを進めておられたものである。残念ながら、完成を見ずしてご逝去されたが、私たちとしては何とかこの業績を後世に残したいと考え、半ばで終わっていた原稿を整理し、ここに掲載することにした。

研究史の部分は、残念ながら私たちの未熟さゆえに高橋氏の収集されていた1998年以降の文献を追加することはできなかったが、ご容赦いただきたい。それとともに、兵庫県の中虫相解明に向けて、高橋氏の後に続く方が出てきていただくことを期待する。

また、本稿は、当初は別冊(特別号)として発行を予定していたが、30周年記念号の発行時期であるため、本冊中に掲載させていただくことにした。

はじめに

日本で初めてキベリハムシが神戸の地から記録が発表されたのが1933年である。筆者もその時期からキベリハムシの採集、飼育に力を注いだ関係からキベリハムシには人一倍の親しみをもって接してきた。しかも、現在も日本では兵庫県下のみ分布する特異なハムシである。70年近くも接してきたこのキベリハムシについて、日本での記録が出始めた時と同時期に接してきたキベリハムシについて、私なりの報告をここに残しておきたいと筆をとった次第である。

このハムシについて一人でも興味を持って接して頂くことができれば筆者の望外の喜びである。

本文をまとめるにあたっては多くの方々にお世話になっているが、それらの方々の御芳名を次に記して厚くお礼を申し上げさせて頂く(*印は故人、ABC順、敬称略)。

東 正雄, 中條道夫, *後藤光男, *蜂谷幸雄, 木元新作, 小林桂助, 近藤浩文, *松本賢吉, 三木 進, *三橋信治, 室井 綽, 奥谷禎一, *大倉正文, 大野正男, *関 公一, *鈴木元次郎, 高橋 匡, 竹中英雄, 田中 梓, 田中靖也, 滝沢春雄, *戸沢信義, *山本義丸。

高橋寿郎

1863. J.S.Baly. Descriptions of New Phytophagus.

Trans. ent. Soc. London, ser.3,1 : 623.

キベリハムシの原記載である。

Adorium Bowringii と命名されていて産地はHong Kong だけで詳しいデータはない。

1889. M.L.Fairmaire. Coleoptères de l'intérieur de la China.

Ann. Soc. ent. France (6)9 : 74-75.

Adorium Bowringii Nord China, Coree Moupin を記録している。

1924. J.Weise. W.Junk Coleop. Catalogus.

Pars. 78, Chrysomelidae 13 Galerucinae.

p.2, *Oides bowringii* Baly として分布はHong Kong, China, Korea となっている。

1927. 土井久作. 朝鮮産葉虫科の研究

動物学雑誌39(466) : 323-329.

p.337, *Oides bowringii* Baly 支那, 朝鮮を分布に記してあるが詳しいデータはない。種名はミスプリント。

1933. 加藤正世 分類原色日本昆虫図鑑第9輯

pl.23,f.6. (厚生閣・東京)

日本から(当時の)初めての原色で図説をされたもので(種名は *Oides bowringii*) 産地は台湾とのみになっている。この標本は有名な森木標本の一つであり、G.Lewis が Hiogo で採集したものであるが、加藤正世博士は何の疑問を持たれることなく単純に台湾産として図示されたものである(このことについては高橋寿郎,きべりはむしVol.26,No.2,p.31-32,1998 に詳しく経緯を解説してある)。

1933. 関 公一 御影町付近産の甲虫目録(其の二)

昆虫界1(5) : 494.

p.494にキベリハムシの記録がある。日本からの正式な記録は本文が初めてではないだろうか。学名は *Oides bowringii*。産地は明記されていないが、六甲山麓と考えられる(報告其の一に御影町付近六甲山、摩耶山、芦屋山などを含むと記してある)。

1933. 人見一馬 質疑 昆虫界1(6) : 656.

六甲山で本種を採集した記録(6.VIII.1933)とこれに対し加藤正世博士も同年那須範子氏の標本(神戸産)をもらったとの記録。台湾産と異ならないむねを記しておられる。同時に湯浅啓温博士の本種についての解説も出ているが、同博士は台湾からは未記録ではなかったのかと書いておられる。

1994. 生田豊一 キペリハムシの産地
昆虫界2(7) : 118.

神戸市篠原での記録(20.VIII.1933)。同時に加藤正世博士により江崎梯三博士が中学時代(大正2年頃-1913)、すでに本種が大阪付近に産し、その標本を持っているという記録がある。

1934. 足立輝一 生徒採集昆虫調査報告

少年昆虫界1(2) : 32 (昆虫界Vol.2, No.8に含まれている)。

神戸一中の夏季宿題の採集品を調べた結果をまとめられたものである。注目すべき種についての解説はついているがデータ等は全くない。産地もおそらく兵庫県下神戸市中心だろうと思うが詳しくはわからない。ハムシ科は5種で非常に少ない。キペリハムシは数頭採集されていたとある。場所の記入がないが、六甲山系だと考えられる。

1934. 加藤正世 採集巡禮記(二)

昆虫界2(9) : 329.

摩耶山へキペリハムシを探しにの記述あり。

1934. 加藤正世 第2回昆虫展覧会出品物より

昆虫界2(12) : 688-689.

キペリハムシ

鳥原(鳥原となっている) 9.VIII.1934, 神戸市平野
小一年 箸方照男採.

平野 18.VIII.1934, 同上六年 米沢 璋採.

再度山 17.VIII.1934, 同上五年 城崎 進採.

芦屋高座滝 8.VII.1934, 甲陽中学.

1936. Ogloblin. Fauna U.S.S.R. Vol.26, No.1.

Chrysomelidae, Galeurcinae.

p.149. 分布に朝鮮, 日本が掲げてあるが日本のどこか地名は入っていない。

1937. 大阪昆虫同好会 京阪神の昆虫採集地

B6, 単行本, 30p. (大阪府箕面公園内 大阪昆虫同好会刊)

六甲山頂でキペリハムシが採集できる(6,7月)と

の紹介あり。

1937. 平山修次郎 原色千種續昆虫圖譜

pl.74, f.2, p.167 (三省堂・東京)

六甲山産の図説(4.VIII.1936)がある。分布は本州(神戸地方), 台湾とある(この標本は田中光照氏提供のものである)。

1937. 横山光夫 環境とFamily昆虫の大阪(そのI)
昆虫界5(45) : 797-809.

p.800. 六甲山でキペリハムシを一人で二百数十頭採集したという記録。本文は後に若干記載表現がオーバーであることを指摘されたが(昆虫界Vol.6, No.56 : 808-810, 1938), この当時多くいたことは事実である。

1938. 横山光夫 環境とFamily昆虫の大阪(そのII)
昆虫界6(54) : 641-652.

キペリハムシの六甲山での記録がある。

1938. 田中光照 キペリハムシ

兵庫県中等教育博物学雑誌創刊号 p.57-58.

夢野大師登り口の旭ヶ丘及び鳥原産の本種を飼育した結果をまとめて発表されたもので、本種の形態、生態についての報文として初めてのものである。紙面の都合で飼育状況等が割愛されているのは残念である(この飼育の状況は筆者も実際に見せて頂いた)。付記として六甲山(1930, 1931), 芦屋高座付近の記録もある(1931)。

1938. 鍋木 渡 キペリハムシ

昆虫界6(58) : 885-888.

六甲山(1930), 芦屋高座付近, 鳥原貯水池(1935)等に産することを記録されると同時に、本種の生態、形態を記述された報文である。

1938. 松本賢吉 キペリハムシに関する知見

日本の甲虫2(2) : 65-67.

六甲山麓高座滝付近より鶴越に至る六甲山脈南側に分布することを述べるとともに、本種の形態、生態を図入りで記述された報文である。

松本賢吉氏は1940年、キペリハムシの情報交換のため拙宅を訪問された(当時神戸税関勤務)。

1939. 大阪朝日新聞 No.20711. 昭和14年6月14日

朝刊.

"向学の兄弟に飢歌, 亜熱帯の昆虫を裏山で発見, 研鑽, 自家飼育に成功" という見出しで写真を入れ

て朝日新聞上に報道された。使用された材料は夢野大師登り口旭ヶ丘及び鳥原産の標本を飼育され、その生活史を明らかにされたもので、兄弟とは田中光照、田中靖也両氏のことである。田中靖也氏はその当時神戸二中(現兵庫高校)の五年で、筆者が四年で家も近かったので飼育の状況を見せてもらいに伺って、数多くの生きた本種を見せられて驚いたものである。

1939. 高橋寿郎 神戸産甲虫雑記

兵庫県博物学会々誌(18) : 51-53.

その当時のキベリハムシの産地について記した。それらの地とは、芦屋高座付近、六甲山、摩耶山、再度山、鳥原貯水池付近、大日丸山付近である。

1939. 神戸博物同好会 布引〜摩耶ハイキングコースと昆虫採集

博物趣味1(3) : 4-6.

執筆者がいない。神戸大丸が主催した同上会の機関誌で、確か5号で廃刊になったと思う。毎号写真入りの可愛らしい機関誌で、6ページほどのものであった。この号にキベリハムシが摩耶山西の谷とケープルに近い谷間で採れることが紹介されている。

1939. 田中靖也 宝庫之鍵

Nature(9) : 1-27. (神戸二中博物研究会刊)

神戸付近昆虫採集便覧と副題をつけ、鳥原採集案内主体としたものである。その中にキベリハムシが普通に採集できるとの記述がある。

1939. 高橋寿郎 キベリハムシの新産地報告

昆虫世界43(508) : 374.

神戸市板宿及び多井畑での記録をする。

1940. 高橋寿郎 キベリハムシに就いて

昆虫界8(72) : 104-112.

本種を飼育した記録を中心に、形態、生態について記述した。使用した材料は全部鳥原産である。

1940. 高橋寿郎 神戸鳥原貯水池付近に於けるキベリハムシの発生状況並びに同貯水池のハネカクシ科に就いて

昆虫趣味の会神戸支部報No.4 (昆虫界8(75) : 363-365).

1940. 清田輝夫 雑報三件

昆虫界8(76) : 428.

布引奥砂止付近にて本種を採集した記録(16.VII.

1939)である。

1940. 平山修次郎 原色昆虫図譜

pl.50,f.2,p.159 (三省堂・東京)

1037年版原色昆虫図譜 正・續の甲虫の部を主体としてまとめられたもので、本種キベリハムシの記載は前回どおりの図版が使用されている(六甲山産 4.VIII.1936)。分布に朝鮮が加わっている。

1940. 高橋寿郎 神戸再度山附近産の甲虫目録

昆虫世界44(512) : 107-110.

p.110に本種が再度山、鳥原貯水池付近にきわめて普通のむね記述した。

1940. 高橋寿郎 神戸市甲虫雑記(III)

昆虫世界44(518) : 311-314.

その時代までのキベリハムシに関する文献を整理、旭ヶ丘付近の産出状況の説明と神戸市における本種の産地を一括して記録した。ピナンカズラ以外の食草があるのではないかとの疑問を提出しているが、現在のところ食草はピナンカズラとマツブサの2種しか確認できていない。

1941. 兵庫県立第一神戸中学校博物学会 一中付近の昆虫 単行本 B5, 39p.

現在の神戸高校付近の昆虫を同校博物学会がまとめて謄写版で単行本として発行したもので、甲虫は増田 猛、橋本直也両氏の担当である。1940年8月、2頭採集できた記録で日付は記されていないが1頭は一中プール横、畑のアジサイ科植物に飛来したものであるとのこと。

1943. 高橋寿郎 神有沿線甲虫相(4)

昆虫世界47(546) : 46-47.

p.47に本種が鶴越付近に普通を記録したものである。

1944. 萬濃誠三、高橋寿郎 神戸産金花虫相(4)

昆虫世界49(557) : 29-30.

第1報鳥原を中心とした付近一帯の金花虫科目録(其の二)として発表した。p.29にキベリハムシの記録がある。

1948. 高橋寿郎 キベリハムシの産地

採集と飼育10(6) : 181.

神戸背山の産地を記録(戦後初めての記録となる)。

1949. 山本義丸 篠が峰の昆虫

- 氷上郡の自然研究No.6.
本号において氷上郡下で初めて本種がいることを報告された。篠ヶ峰(1949年8月)。
1950. 柴内俊次・中群史雄 神戸虫便り
札幌博物同好会年報(1): 3-16.
p.12に神戸でのキペリハムシの産地の紹介がある。
1951. 西村公夫 昆虫2題 新昆虫4(10): 36.
神崎郡長谷村字栃原小段ヶ峰高原にて1♂, 15.VIII.1950の採集記録がある。
1952. 山本義丸 郷土・氷上郡の昆虫相について
Natura (兵庫県立柏原高校生物研究会々誌)(7): 1-13.
キペリハムシの記録はあるが、詳しい採集月日が示されていない。
1952. 山本義丸 篠ヶ峰のキペリハムシ
Natura(8): 62.
4exs., 27.VII.1952, 1ex., 28.VIII.1952
ともに篠ヶ峰で採集できた記録である。なお、食草としてピナンカズラと同じモクレン科のマツブサを同時に記録している。
1953. 山本義丸 兵庫県丹波地方の葉虫相
兵庫生物2(3): 131-138.
本報文中でキペリハムシの従来の兵庫県下神戸市以外の産地についての記録をまとめている。
1954. 谷口行弘 石戸に於けるキペリハムシ
Natura(11): 14.
奥石戸(石戸開拓部落)において7exs., 21.VIII.1950, 2exs., 24.VIII.1950の採集記録。さらに氷上郡下の本種の産地を次のようにまとめている。
篠ヶ峰(氷上郡最初の採集地, 1938), 栗鹿峰, 柏原, 高見城, 石戸
1954. 山本義丸 キペリハムシの新産地と食草
新昆虫7(1): 44.
当時の神戸市以外の産地を記録、並びに食草にマツブサを追加記録されている。
神崎郡小段ヶ峰(1,103m, 1ex., VII.1950, 1ex., VII.1951)
氷上郡篠ヶ峰(1ex., VIII.1949, 14exs., VIII.1953)
氷上郡栗鹿峰(962m, 1ex., VIII.1950)
宍粟郡三方村国有林(1ex., VIII.1952)
1955. 近畿甲虫同好会編 原色日本昆虫図鑑, 甲虫編 pl.47, f.57, p.131. (保育社・大阪)
ハムシの担当は後藤光男氏である。図説されたのは神戸市夢野産 (IX.1936) で、6~9月に発生するとある。分布は本州(神戸付近), 朝鮮, 台湾, 南支となっている。
1955. 近畿甲虫同好会編 原色日本昆虫図鑑, 甲虫編 増補改訂版, pl.19, f.409, p.55. (保育社・大阪)
初版以来半年経て増補改訂版が出版された。ハムシの担当はやはり後藤光男氏であり、この図版は前版と同様の構成であるが、キペリハムシの写真は違っている。使用された標本は神戸市烏原 (VII.1939) 産。分布は前回通り。
1955. 高木吉雄 兵庫県のキペリハムシ
新昆虫8(12): 43.
能勢の一の烏居で本種が採集されたという新聞記事に対する意見である(このあたりに分布しているかどうか、1990年の時点では正しい記録を見ていない)。
1956. 高橋寿郎 きれいな甲虫
兵庫県生物誌 pp.58-66, 単行本(兵庫県生物学会編・神戸新聞社刊)
本種の県下での産地を記録した。六甲山系神戸背山全般(六甲山~鶴越), 神崎郡長谷村段ヶ峰, 宍粟郡三方村国有林, 佐用郡船越山, 氷上郡篠ヶ峰。
1956. 京都昆虫同好会 昆虫採集地案内 近畿地方 A5, 56p. 単行本
p.19. 船越山をキペリハムシを産する記録がある。
1958. 山本義丸 兵庫県氷上郡昆虫目録
兵庫県立柏原高校生物研究会 NATURA 特別号 B6, p.1-134, pl.5.
pl.V, f.37 に全形図。p.86, *Oides bowringi* Baly の学名でキペリハムシが記録され、篠ヶ峰, 石戸山, 高見城山等に発生地があり、食草はマツブサ及びピナンカズラである。栗鹿峰, 柏原町下小倉でも採集されたとある。
1958. 高橋寿郎 キペリハムシ
新昆虫11(7): 12.
戦後の本種の産出状況を説明。
1958. 高橋寿郎 珍しい甲虫類

- 国立公園六甲山の自然 pp.146-148. 新書判(六月社刊・大阪)
六甲山の甲虫を担当して執筆。その中でキベリハムシの分布についてふれた。
1959. 林 長閑 日本幼虫図鑑 f.556, p.508.
(北隆館・東京)
キベリハムシの幼虫の図説をされているが、何処産か記されていない。六甲山脈が産地として記録されている。
1960. 田中光照 特産甲虫キベリハムシ
兵庫の自然 p.38. (兵庫県生物学会編のじぎく文庫)
本種の生態、分布について記録されている。
1960. 沢田敏郎・岡本 清・猪股涼一 播磨東北部の山めぐり 兵庫の自然p.80-82.
篠ヶ峰(氷上郡)にキベリハムシを産することが記録されている。
1960. 山本義丸 県下の昆虫 兵庫の自然 p.166.
兵庫県特産のキベリハムシについての解説がある。
1961. 鳥居正史 六甲山系昆虫類目録(1)
Shida(9) : 4-6. (兵庫県立長田高校生物部機関誌)
キベリハムシの六甲山極楽茶屋(21.VIII.1960)の記録がある。
1961. Chújo, M & Kimoto, S. Systematic Catalog of Japanese Chrysomelidae (Coleoptera).
Pacific Insects 3(1) : 117-202.
p.167. *Oides bowringii* (Baly) キベリハムシ
分布は China, Korea, Japan (Honshu) になっている。
1961. 高橋 匡 キベリハムシ山南地方に産す
Natura(18) : 65.
氷上郡下での記録。
山南町防草 1ex., 20.VIII.1960.
山南町南中 1ex., 1.IX.1960.
1963. 毎日新聞神戸支局編著 六甲山系
A5, 311p. (中外書店・神戸)
p.141に摩耶山のおもとや布引、育谷などにキベリハムシがいるとの記録である。
1963. 高橋寿郎 ママはコン虫学者(5)
神戸新聞1963年8月8日号
キベリハムシの解説をしている。
1963. 高橋寿郎 「虫と貝とかたつむり展」解説書
於 市立明石天文科学館講堂 7月20日~8月31日
キベリハムシの解説をしている。
1963. J.L.Gressitt & S.Kimoto. The Chrysomelidae (Coleop.) of China and Korea.
Pacific Insects Monograph 1B : 301-1026.
p.476. *Oides bowringii* (Baly)
分布. S.China, Korea?, Japan となっている。
1963. 中根猛彦 原色昆虫大図鑑 II (甲虫編)
pl.168, f.11, p.335. (北隆館・東京)
キベリハムシ
本州(兵庫県), 朝鮮, 支那が分布地域として図説されている。
1964. 高橋寿郎 「県下特産生物展」解説書
於 市立明石天文科学館講堂 7月20日~8月31日
キベリハムシの解説をした。
1964. 高橋寿郎 六甲の自然
サンケイ新聞 1964年8月22日号
キベリハムシについて解説をした。
1964. S.Kimoto. The Chrysomelidae of Japan and the Ryukyu Islands, VI.
Jour. Fac. Agr. Kyushu Univ. 13(2) : 287-308.
p.307. *Oides bowringii* (Baly) キベリハムシの記録がある。
Karasuhara in Kobe City (1ex., 4.V.1939, M.Uno leg.).
Mt.Rokko in Kobe City (1ex., 12.VIII.1951, Y.Wada leg.).
1965. 東 正雄 京阪神の動物
B6, 198p. (六月社書房・大阪)
p.106-107. キベリハムシが夢野台中学裏山(VIII.1960), 六甲山ケーブル付近(1.VIII.1963), とともに100頭以上が群がっていた記録と生態写真が出ている。
1965. 西脇自然同好会昆虫班 西脇・多可・八千代昆虫目録
西脇自然同好会々報1(1) : 51.
キベリハムシの笠形山(4.VIII.1960)の記録。全体には稀、局地的には多いとある。顧問の岡本 清先生

に何うと黒田庄町黒田にもいる由。笠形山には多いようで群生も見られるという(黒田庄では筆者自身幼虫を多数確認している)。

1965. S.Kimoto & I.Hiura. A List of Chrysomelid specimens preserved in the Osaka Museum of Nature History II (Insecta : Coleoptera). Bull. Osaka Mus. Nat. Hist. (18) : 31-48. p.33にキベリハムシの記録がある。産地は神崎郡栃原谷 (lex.,4.VII.1963)。

1968. 高橋寿郎 神戸市烏原貯水池付近の甲虫雑記 (1) MDKニュース20(3) : 3-14. 兵庫県におけるキベリハムシの記録をまとめた。

1968. 高橋寿郎 神戸市烏原貯水池付近の甲虫雑記 (2) MDKニュース21(1) : 2-7. キベリハムシの生態・分布について記した。

1970. 奥谷禎一 天然記念物緊急調査 28. 兵庫県 (文化庁・東京) p.32にこの時点でのキベリハムシの県下の分布を解説。北限は栗鹿山(青垣町・氷上郡), 三方村固有林(一宮町・宍粟郡)とある。

1970. 奥谷禎一 共存者の行方 消えゆくコン虫 神戸新聞昭和45年12月2日朝刊 キベリハムシについての解説もある。

1971. 東 正雄 京阪神の動物・増補版 B6, 198p. (六月社書房・大阪) 1965年の初版と同じ夏に刊行, キベリハムシに関する解説がある。

1971. 高橋寿郎 1971年ハムシ類採集記録(神戸市烏原貯水池付近の昆虫雑記・4) MDK NEWS 23(2) : 2-4. キベリハムシを多数採集。それらを飼育した状況を述べる。

1971. 竹中英雄 日本産ハムシ科幼期習性から見た系統について 研究と評論第13号 : 41-70, pl.1-6. *Oides* 属のハムシにも卵の上を糞で被ったり, わずかではあるが糞を塗りつける習性が見られるとある (p.63)。

1972. 兵庫県探検自然編取材班 キベリハムシ

兵庫県探検自然編,32 神戸新聞昭和47年4月25日号

筆者がMDK NEWS (1969) に発表したキベリハムシに関する報文を主体としてキベリハムシの解説をされた。写真は筆者飼育中のもの(神戸市烏原産)を用いられた。

1974. 神戸新聞社 兵庫探検 自然編 B5, 368p. (神戸新聞社・神戸) p.268-273, 1972年の記事のみそのまま収録されており, 写真は改めて撮影された。筆者の飼育標本が写されている。

1974. 高橋寿郎 風物誌(137) 甲虫(続) 山陽ニュース(275) : 10-14. (山陽電鉄事業部・神戸) p.14にキベリハムシを解説。 1974. 高橋寿郎 キベリハムシ 採集と飼育36(4) : 88-91. 分布を中心にキベリハムシを解説。

1974. 山口福男 キベリハムシ インセクトリウム11(6) : 138. 美しいカラーで表紙を飾り, p.18に生態を中心に解説が付いている。なお, このページに筆者の提供したキベリハムシの写真も掲載されている。

1974. 奥谷禎一 兵庫県の昆虫類 兵庫の自然の現状 II : 58,67. (兵庫県生活自然課) その時点での県下の分布の概略と分布図がついている。

1975. 森内 茂・永井正身 キベリハムシ 昆虫の飼い方II. A5,変形255p. (文教出版・大阪) p.75-76. 六甲山系で採集, 飼育された記録並びに美しいカラープレートがある。

1975. 倉本康司 ビナンカズラを食べるキベリハムシ *Natura*(32) : 50-52.

1975. 竹中英雄 学研中高生図鑑 昆虫II, 甲虫 B6, 445p. (学研・東京) p.146,236にキベリハムシのカラー図説, 解説がある。分布として本州(兵庫県)とのみある。解説者竹中英雄氏は1974年5月15日, 筆者を訪問され, 筆者が教えた神戸市烏原池畔で幼虫6exs.を採集, 生きたま

を持ち帰られた。

1976. 木村三郎 書写山でキベリハムシ発生
てんとうむし(姫路昆虫同好会々報)1(3): 2.
姫路市書写山からの記録(1.VIII.1976). 県下での
本種の分布を地図によって示す。

1976. 仲井啓郎 氷上郡のキベリハムシ
新・兵庫の自然B6, 206p. (のじぎく文庫・神戸)
p.188に氷上郡のキベリハムシの記録地点(11地
点)が詳しく紹介されている。

1976. 仲井啓郎 氷上郡の昆虫
兵庫県の自然6(2): 32-33.
キベリハムシの山南町和田及び谷村, 山南町富田
及び「若林」, 春日町東中の記録がある。

1976. 五十嵐英二 観察四題
MDK NEWS 27(76): 20-21.
キベリハムシの神戸市烏原貯水池畔付近にて
25exs.採集の記録(1975年7月17日)。

1977. 仲井啓郎 竹田川の昆虫
ひかみ(9): 104-109.
春日町東中(氷上郡)でキベリハムシが採集された
記録がある。

1977. 高橋 匡 「但馬むしの会」発足に寄せて
IRATSUME(1): 7-12.
p.11に糸井中学校の一生徒が持ってきた標本の中
に糸井(和田山町)で採集されたキベリハムシがあっ
た(データ焼失)の記事がある。

1978. 田中靖也 きべりはむしとぎぼうし
かぶとがに(8): 36-38. (県立兵庫高等学校創立
七十周年生物研究部記念誌)
キベリハムシの思い出がつけられている。

1979. 高橋寿郎 藍那の甲虫類 藍那地区自然環
境調査書 B5, 60p. (兵庫県自然保護協会鈴蘭台
支部刊).
p.33. この地域にキベリハムシが分布していると
解説。

1980. 奥谷禎一 宝塚市の昆虫類
宝塚市史(7): 512-523.
宝塚市川下川流域(武田尾の北部)にキベリハムシ
を産するという記録がある。

1981. 珍虫・キベリハムシ 六甲山の昆虫たち
B6, 190p. (のじぎく文庫・神戸)p.10-15.
キベリハムシのこれまでの兵庫県下での分布状況
を中心に解説した。この書の表紙並びに裏表紙にカ
ラーでキベリハムシの装丁をした。この書は全部筆
者執筆の単行本である。

1981. 高橋寿郎 うら山の虫たち 南国の珍虫キベ
リハムシ 平野新聞昭和56年8月5日, 第29号
キベリハムシについて解説。

1982. 室井 綽 六甲動物散歩
六甲の自然(室井 綽・清水八重子編) B6, 229p.
(神戸新聞出版センター・神戸)
p.41にキベリハムシについての説明がある。

1982. 高橋寿郎 キベリハムシ
六甲の自然(神戸新聞出版センター・神戸)
p.42-43にキベリハムシについての解説がある。
執筆者名に田中光照氏が共著となっているが、筆者
のみが執筆したものである(編集者のミス)。

1983. 開高 健監修 自然探訪-4
関西近畿を歩く A5, 215p. (講談社・東京)
p.195に六甲の紹介のところでキベリハムシにつ
いての説明がある。

1983. 岡島秀治・海野和男 日本の甲虫 (小学館
自然観察シリーズ15, 新書判, 190p.) (小学館・東
京)
p.126,157にキベリハムシの図説がある。

1983. 高橋寿郎 キベリハムシ 兵庫県大百科事
典上巻: 651-652(神戸新聞創刊85周年記念出版
・神戸新聞出版センター刊・神戸)
兵庫県における分布状況とその生態の解説。写真
並びに分布図がついている。

1984. 高橋寿郎 大好物はピナンカズラ・中国渡来
のキベリハムシ
博物紀行・兵庫県 A5, 206p. (福武書店・東京)
キベリハムシについて解説。「ピナンカズラの葉
上に乗って……」と写真に解説されているが、これは
ピナンカズラではない(編集者のミス)。

1984. 木元新作 原色日本甲虫図鑑(IV)
pl.35, f.25, p.128. (保育社・大阪)
分布は本州(兵庫), 朝鮮半島, 中国南部となって

いる。

1984. 方城正三 キペリハムシ 六甲ズームアップ(15) (神戸新聞1984年6月9日号)

1984. 奥谷禎一 兵庫の昆虫
季刊 兵庫のペン(23) : 16-19.
p.18にキペリハムシの県下の分布の拡がりについて神戸から西北に広がって東へはほとんど広がっていない。北へも分布は広がっている。

1985. 高橋寿郎 開国と同時にやってきたキペリハムシ
昆虫と自然20(1) : 13-15.
キペリハムシの兵庫県下に定着した経緯の推測と分布の状況。

1985. 林 長閑編 決定版生物大図鑑 昆虫 II 甲虫(世界文化社刊・東京)
p.254-255にカラーによるキペリハムシの図説。兵庫県に分布とのみ記されている。

1985. 室井 緯・清水八重子 「室井ひろしの自然百科」 B6, 207p.(地人書籍・東京)
p.144-145. 胸をときめかす美しさ兵庫県とキペリハムシ。「このキペリハムシはもと台湾産であるが…」の記事は「中国産」の間違い。

1986. 広瀬重夫 生田川の自然をさぐる
神戸の自然・15 (神戸市立教育研究所刊・神戸)
p.102に生田川沿いでキペリハムシを採集飼育した記録と幼虫・成虫のカラー写真がある。

1986. 木元新作 検索表による日本のハムシ類(V)
昆虫と自然21(4) : 25-28.
p.27にキペリハムシ *Oides bowringii* Baly の記述がある。分布地：本州(兵庫), 朝鮮半島, 中国南部。

1986. 森本 桂・林 長閑 原色日本甲虫図鑑(I)
(保育社・大阪)
p.26に1933年以降神戸に定着したキペリハムシとして成虫並びに幼虫をカラーで図示されている。

1986. 神戸の自然研究グループ 六甲山の自然(環境庁瀬戸内海国立公園管理事務所刊)
パンフレット形式のものであるが、キペリハムシのカラーでの収録がある。執筆者は上記グループと神戸市立教育研究所となっている。

1986. 兵庫県生物学会編 竹と共に七十年-室井緯博士物語 A6, 264p. ケース入り(兵庫県生物学会創立四十周年記念出版)
p.36にキペリハムシについての解説があるが、台湾原産とあるのは明らかに間違いである。

1936. 山口福男 笠形山千ヶ峰県立自然公園の昆虫 笠形山千ヶ峰県立自然公園及び周辺地域の環境調査報告 : 21-28.(兵庫県新観光課刊)
p.22に写真入りでキペリハムシが笠形山より記録されている。

1986. 山口福男 雷彦峰山県立自然公園の昆虫 雷彦峰山県立自然公園及び周辺地域の自然環境調査報告 : 27-35.(兵庫県新観光課刊)
p.29に砥峰からのキペリハムシの記録がある。

1986. 高橋寿郎 <雑録>キペリハムシ
きペリはむし14(2) : 45-46.
キペリハムシに関する誤った解説, 報道のいくつかを取りあげて正した。

1986. 守本陸也 小さな昆虫記 (講談社・東京)
p.91にキペリハムシが出ているが写真のみである。

1987. 高橋寿郎 外国からきた甲虫
鳥と自然(44) : 11-16.
p.15に写真を入れてキペリハムシについて分布を中心に解説。

1987. 金沢 至 キペリハムシの生活 甲虫-その繁栄のナゾをさぐる-(大阪市立自然史博物館刊)
p.51-52, pl.5. この報文で初めて大阪北部の産(詳細な産地名はない)が記録された。

1987. 高橋寿郎 兵庫にすむ甲虫
科学っ子Vol.2 : 17-18. (関西電力株式会社姫路支店刊)
p.18に兵庫にすむ甲虫としてキペリハムシをカラーで図示。

1987. 林 長閑 ヒトと甲虫(法政大学出版局刊・東京)
p.47-48に六甲山系のキペリハムシの解説あり。

1988. 高橋寿郎 六甲山の昆虫
六甲山の地理 B6, 295p. (阪神大水害50周年事業出版 神戸新聞総合出版センター刊・神戸)

- p.133-134に六甲山系にすむ虫の代表としてキベリハムシを図をつけて解説。
1988. 大竹昭郎 日本にきた虫・くる虫(裳華房・東京)
p.155にキベリハムシの図。
1988. 相坂耕作 キベリハムシ
播磨の昆虫 B6, 221p. (のじぎく文庫・神戸)
p.61-62に播磨地方の記録地である多可, 神崎, 宍粟, 佐用, 飾磨以外, 六甲山系にも言及, 写真も入っている。
1989. S.Kimoto. Chrysomelidae (Coleoptera) of Thailand, Cambodia, Laos and Vietnam. IV. Galerucinae. ESAKIA(27) : 1-241.
この論文のp.35-36で Tonkin 産で記載されている。 *Oides tonkinensis* Laboissiere, 1929. Ann. Soc. Ent. France, 98 : 252. がキベリハムシのシノニムにされている。したがってキベリハムシの分布に Vietnam が加わることになる(具体的な産地, 標本などの提示はない)。
1989. 高橋寿郎 神戸市内で見られなくなった甲虫・神戸市内にやってきた甲虫・ふえた甲虫
鳥と自然(52) : 8-15.
p.14に神戸にやってきた虫としてキベリハムシを写真入りで解説。
1989. 新修神戸市史編集委員会編 新修神戸市歴史編 I 自然考古 A5, 721p. (神戸市発行)
p.5にカラーで「5. 貴重な動物」の一つとしてキベリハムシが収録されている。
1989. 県自然系博物館設立準備室 キベリハムシ
自然とともに(8) : 9. (兵庫県環境管理課・林務課刊)
1989. 県自然系博物館準備室 キベリハムシ
兵庫県立自然博物館準備室ニュース(1) : 8.
1989. 平嶋義弘監修 九州大学農学部昆虫学教室・日本野生生物研究センター共同編集 日本産昆虫総目録 I, B5, 540p. ハムシ科 : 464-485.
p.476にキベリハムシ *Oides bowringii* (Baly, 1863) の学名で収録されている。分布を本州, 朝鮮半島, 中国南部とする。
1990. 大竹昭郎 海を越えてきた虫たち
虫の自然史 : 91-96. (新人物往来社・東京)
p.94-95にキベリハムシについての説明あり。
1990. 高橋 匡 兵庫県特産キベリハムシ
但馬の自然 : 126-127. (のじぎく文庫・神戸)
但馬では和田山町立糸井中学校の生徒が糸井溪谷で1頭採集したのが最初で, その後関宮町の杉ヶ沢高原で採集されたのが報道された。しかしその後全く記録がないとある。
1990. 竹崎雅円 特集 神戸の小さな生き物たち
市民グラフこうべNo.213 : 2, 15.
「歩く宝石といわれるキベリハムシ。大正時代から中国から神戸に上陸し次第に広がっている。食草はビナンカズラ, 六甲山の登山道や西北神の川沿いに多い」とある。写真撮影の場所日時は入れてほしかった。
1990. 県自然系博物館準備室 キベリハムシ情報第一報
兵庫県立自然系博物館準備室ニュース(2) : 4.
三田市小野の聖徳寺の庭で1ex.採集(1987.X).
宝塚市波豆普明寺で死体を見た(24.VIII.1988).
1990. 県立自然系博物館準備室 キベリハムシ情報第二報
県立自然系博物館準備室ニュース(3) : 8.
西宮市の記録
西宮市塩瀬町名塩字土林 1987.7.20.
準備室飼育個体六月に羽化
七頭が蛹室を作り, 羽化したのは二頭。
1990. 高橋寿郎 キベリハムシに関する文献目録
兵庫昆虫同好会特別報告第1号 : 1-16.
1990年前半までのキベリハムシに関する文献目録をまとめた。
1990. 三宅隆三 キベリハムシ西宮市にも生息
きべりはむし18(2) : 42.
西宮市苦楽園五番町2 (25~26.VIII.1990).
1990. 高橋寿郎 北ベトナム産のキベリハムシ
きべりはむし18(2) : 43-44.
TAMDAO, Vietnam 3~7.VII.1992. 2♂1♀
♂交尾器の図説と日本産との相異点を解説。
1991. 兵庫県広報課 兵庫の生きものたち

- 県民だより「ひょうご」平成3年1月号
各月の県民だより「ひょうご」の1月号4ページに一面に兵庫の生きものたち動植物の紹介がある中で、キベリハムシが写真入りで出ている。地図での産地は北区だけが代表で示されている。
1991. 高橋寿郎 キベリハムシ水上郡山南町五ヶ野で採集
きべりはむし19(1) : 30.
1991. 西宮市総合センター編 キベリハムシ
西宮の自然ガイド 北部の自然
—西宮の北部で見られる生き物たち— B6変形
93p. (西宮市立教育センター刊)
p.48-49にキベリハムシをカラーで図説。
1992. 相坂耕作 キベリハムシ山南町の多産
姫昆サロンニュース(87) : 2.
1992. 橋本佳明 キベリハムシ
ニューひょうごNo.299(1992.VIII).
表紙2ページ目にカラー図と説明がある。
1993. 小田中 健 宝塚の昆虫 IV. 甲虫目(II)
B5, 224p. (宝塚市教育委員会刊)
p.165に宝塚市切畑字長尾山, 玉瀬の記録がある。
分布のところで台湾とあるのは削除してほしい。
1993. 1993年12月16日号 朝日新聞「この一品」欄
芦屋市三條南町の山本徹男氏が六甲山系で採集したキベリハムシの幼虫二頭採集, それを約5年にわたり自宅の庭先にて増殖, うち160exs.を標本にしていると写真付きで紹介されている。
1994. 木元新作・滝沢春雄 日本産ハムシ類幼虫・成虫分類目録 B5, 133pl. 539p. (東海大学出版会・東京)
キベリハムシが次のように図説, 解説されている。
p.27, pl.22, Fig.4., p.149,235,309.
p.373, pl.114, Fig.4., p.465-466.
1995. 高橋寿郎 兵庫県甲虫相の変遷
鳥と自然(79) : 5-13.
キベリハムシの神戸における発見からの経緯を概説。
1995. 高橋寿郎 兵庫県産甲虫類に関する文献目録追加篇 II. (1984-1994)
きべりはむし23(3) : 44-66.
1995. 高橋寿郎 キベリハムシに関する文献目録・追加
きべりはむし23(3) : 68-69.
1995. (社)ひめじ花と緑の協会 青いサファイア
キベリハムシ
ひめじの昆虫 II : 17.
執筆者不明。姫路昆虫同好会のメンバーの方々によるものと思われる。カラーでキベリハムシを紹介。番写山にわずかに見られるだけとある(本書奥付に平成4年3月の日付が入っているが, 実際の出版は1995年(平成7年)である)。
1996. 奥谷禎一 帰化動物
宝塚の自然(10) : 3-5.
キベリハムシについての記述がある。
1997. 高橋寿郎 キベリハムシ
兵庫県自然保護協会編 RED DATA ひょうごの野生生物 B6, 229p. (神戸新聞総合出版センター)
p.178-179にキベリハムシの図説がある。
1997. 高橋寿郎 キベリハムシがはじめて日本で記録されたころの思い出
きべりはむし25(2) : 44-47.
1998. 高橋寿郎 キベリハムシを日本で一番初めに採集したのはジョージ・ルイスではないのか?
きべりはむし26(2) : 31-32.
1998. 山口福男・近藤伸一 再度山のキベリハムシの多発生について
きべりはむし26(2) : 65-66.

記 載

Genus *Oides* Weber

Oides Weber, 1801, Obs. Ent. 26 (type : *Chrysomela bipunctata* F.)

- Blackburn 1896, R. Soc. & Austr., Trans. 20 : 79.
- Weise, 1902, Archiv. Naturg. 68, I (2) : 136.
- Laboissiere, 1922, Soc. Ent. France, Ann. 90 : 194.
- Ogloblin, 1936, Fauna USSR 26, I : 145, 395.
- Hincks, 1949, Ann. Mag. Nat. Hist. ser. 12, 2 : 617.
- Chujo, Philipp. Jour. Sci. 91, 1/2. 1962 : 61, 63.
- Gressitt & Kimoto, Pacific Ins. Mono. 1B (1963) : 474.

Adorium Fabricius, 1801, Syst. Ent. I : 409 (type : *Chrysomela bipunctata* F.)

- Blanchard, 1853, Voy. Pole Sud. Eool. 4 : 334.
- Boheman, 1859, Eugenie Resa, Col. 157.
- Chapuis, 1875, Gen. Col. 11 : 156.

Ochralea Chevrolat, 1837, IV Dejean. Cat. Col. ed. 2, p. 375, ed. 3, p. 339 (Genotype : *Adorium flavum* Oliver, 1807, monobasic) ; 1945, IN D'Orbigny, Diet. Univ. Hist. Nat. 6 : 5 ; 1846, loc. cit. 8 : 713.

- Hincks, 1949, Ann. Mag. Nat. Hist. ser. 12, 2 : 617.

Boisduvallia (*Boisduvallia*) Montrouzier, 1855, Soc. Agr. Lyon, Ann. 7 : 72.

Phombopalpa Chevrolat, 1837, IN Dejean, Cat. Col. ed. 2, 2, 275 ; ed. 3, 399 (type : *Adorium decempunctata* Billberg, monobasic) ; 1845, IN D'Orbigny, Dict. Univ. Hist. Nat. 6 : 5.

- Hicks, 1949, Ann. Mag. Nat. Hist. ser. 12, 2 : 617.

Botanoctoma Fairmaire, 1877, Petites Nouvelles Ent. 2 (185) : 185 ; 1879, Mus. Godeffroy, Jour. 14 : 113.

- Weise, 1902, Archiv. Naturg. 68, I (2) : 136.

Oides bowringii (Baly) キベリハムシ

Adorium bowringii Baly, Ent. Soc. Lond. Trans. Ser. 3, 1 (1863), 623 (HongKong)

- Fairmaire, Soc. Ent. France, Ann. 58 : (1889), 74 (Korea, Moupin).

Oides bowringii Laboissiere, Soc. Ent. France Bull. (1913), 161 (N. China).

- Ogloblin, Fauna USSR, 26, 1 (1926), 149 (Korea, Japan).
- Hu, in Wu Cat. Ins. Sim. 3 (1937), 860 (Amoy).
- Chujo & Kimoto, Pacific Ins. 3 (1) : 167 (1961).

- Gressitt & Kimoto, Pacific Ins. Mon. 1B (1963) : 476 (S. China, Korea?, Japan).

- S. Kimoto, Jour. Fac. Agr. Kyushu Univ., 13 (2) : 307 (1964).

- S. Kimoto, ESAKIA (27) : 35–36 (1989).

- S. Kimoto & H. Takizawa, Leaf Beetles (Chrysomelidae) of Japan, p. 144, pl. 22, f. 4, p. 309, p. 465–466, pl. 114, fig. 4, pl. 132, f. 6 (1994).

Oides elegans Lab., Soc. Ent. France, Bull. (1919), 161 (Choganh, Tonkini?, Paris) ; Soc. Ent. France Ann. 98 (1929), 252 (Pe–yentsin, Yunnan).

- Ogloblin, Fauna USSR, 26 : 1 (1936), 149 : 396.

Oides tonkinensis Laboissiere, 1929, Ann. Soc. Ent. France, 98 : 252 (Tonkin : HAMBURG).

Distr. Japan (Hyogo Pref.), S. China, Vietnam.

成 虫

体は略卵形で背面は半球状に膨隆し、体の下部は黄褐色、上翅は黄褐色に縁取られた濃藍色で光沢があり美しい。触角は糸状で黄褐色であるが、先端4節、すなわち第8, 9, 10, 11節は黒色。11節よりなり、第2節が最も短小となる。

口器は黄褐色であるが、先端は黒色を帯びる。頭部は小形でほとんど前背板下に退縮する。頭部も黄褐色で、前頭中央は多少凹陷する。複眼は黒色を呈する。

前背板は横腎臓形で光沢がある。小楯板は三角形で黄褐色。

上翅の周縁は多少上向する。点刻は疎であるが濃藍色部に明瞭に見られる。脚は黄褐色、前・中・後肢各脛節の外側に2条の縦溝を有し各脚とも爪は2裂する。



成 虫

腹面は一様に黄褐色で一般に光沢があり、とくに上翅の肩部に当たるところから先端に向かい強い光沢を有し、褐色が鮮やかである。肩部は竜骨状を呈する。

中・後基節、前胸腹板はほとんど点刻を欠く。

腹部は6節を数えるが、一般に死後縮んでしまう。体長13-15mm。

卵

褐色長卵形で長さ約1.8mm。25粒内外が一塊になる。卵塊は暗褐色、膠状物質にて被われる。

幼虫

体は長形でやや扁平、体の大部分は黄色。頭部及び胸脚は黒色、胸部及び腹部各節背面に光沢のある青色の顕著な斑紋状瘤起を装う。頭部も光沢があり、硬皮板も顕著で光沢のある青色を呈する。胸部、腹側面の各節に4個の瘤起があり、この瘤起及び各腹節は微黒色を帯びている。中胸各節はそれぞれ5対の瘤起があり、腹部最内側の2対は左右融合し横条を形成する。腹部側面に各2対の瘤起があり、1対は気門に接している。また、前胸側面に1対、中胸側面に3対、後胸側面に2対の瘤起がある。第9節は小形で背面に尾上硬皮板を備え、尾端はやや膨大して吸盤状を呈する。

体長19.7mm。頭部の幅2mm。硬皮板の長さ1.8mm。硬皮板の幅4mm内外。

蛹

長卵形、全体が黄色を帯びる。しかし眼及び口器の一部は青味を帯びた黒色並びに上翅の大部分、触角、脛節の一部、ふ節等は暗黄色、気門は黒褐色を呈する。

前・中胸は前方に変曲し、頭部は小さく胸下に隠れて背面からは見えない。頭頂に2対、前胸背板に5対、中、後胸背板に各2対の黒褐色の刺毛がある。触角は眼下より前・中脚の背方に廻って中脚の脛節に沿って現れている。

体長10mm。体幅5.8mm内外。

分布

日本(兵庫県)、中国南部、ベトナム。

生態

卵態で越冬する。幼虫は4月上旬に孵化し、孵化した幼虫は直ちに食物を求めて新芽に集まり、嫩葉の側縁より内部に向かって表裏の別なく食害する。幼虫は5齢まで経過する。飼育によれば1齢期間約5日、2齢期間約7日、3齢期間8日、4齢期間10日を要し、5齢期の12日目に老熟して土中に入った。すなわち、5月中旬頃老熟して、老熟幼虫は地下約2cmのところに適当な位置を定め土壌を咀嚼して泥状となし、これで直径約13mmの繭状窩を造り、土窩中に約1ヶ月近く前蛹態で潜伏する。6月中旬頃土塊中で化蛹、6月下旬ないし7月上旬頃羽化する。羽化した成虫は2、3日土窩中で過ごした後、土中より這い出てビナンカズラの枝に飛翔し、再び葉を食害する。

主として日中及び夜間は葉裏に潜伏し、朝夕に活動する。敵襲に遭えば脚を縮めて葉上より落下し、仮死を装う性質がある。飛翔力はあまり強くない。成虫が多いのは7月上旬から8月上旬であるが、野外でも飼育でも10月上旬頃まで見ることができる。産卵は7月中・下旬で、主に枝の分岐部に産卵され、25粒内外を一塊として産みつけられる。卵塊は暗褐色、膠状物質に被われる。1頭が産みつける卵塊は3~5個が普通である。年次毎の発生量には波があり、ときに大発生することもある。

生きているときのキベリハムシは実に美しく、上翅の青藍色の光沢、藍色部の鮮やかさなどは実際に野外で接しなければわからない。同属の *Oides decempunctata* Pillberg を中国当陽県当陽地方でノブドウに群棲しているのに出会ったことがある。こちらにも上翅の鮮桃色を帯びた色彩は、野外で見なければわからないであろう美しさであった。

ベトナム産(タムダオ産)のキベリハムシ♂1♀を所有しているが、♂の腹面尾端は明らかに神戸産のもの異なる。交尾器の形態は図C,Dのとおりである。その他の違いはほとんどない。ただ会合部に沿っての黄色部が全くない。青藍色そのものである。この違いは大きい。ただし、ベトナム産のキベリハムシが全部そうであるのかどうか、もっと多くの標本を見なければわからない。これらから考えると神戸産は亜種に相当するのではと考えられる。

兵庫県におけるキベリハムシの分布 採集地・記録地の一覧

川西市

一の鳥居 [高木,1955]*

三田市

小野聖徳寺 [県立自然博物館ニュース,1990].

宝塚市

波豆普明寺 [県立自然博物館ニュース,1990].

西宮市

苦楽園五番町2 [三宅,1990], 四番町 [関,1992], 仁川町六丁目仁川河川敷 [三宅,1990], 塩瀬町名塩字士林 [県立自然博物館ニュース,1990].

芦屋市

高座 [加藤,1934, 高坂,鶴木,1938], [1ex.,25.VII.1961, H.Kondo leg.].

神戸市

御影 [関,1933], 本山 [1ex.,20.VIII.1965,高輪武志], 六甲山 [人見,6.VII.1933,山島,鈴木,1938; 1ex.,12.VII.1951,Y.Wada leg.,木元,1964] [1ex.,21.VII.1958, etc.**], 小部峠 (六甲山) [小倉,1991], 六甲山上ケーブル駅付近 [東,1965], 篠原 [生田,20.VIII.1933], 摩耶山 [1ex.,26.VIII.1956,櫻井雄二], 旧摩耶道 [天野,1991], 布引 [春木], 保久良山 [1ex.,22.VII.1956,前田邦夫], 森林植物園 [後藤], 烏原, 平野, 再度山 [加藤,1934], 再度山 [山口,近藤,1998], 烏原 [1ex.,4.V.1977,M.Uno leg.,木元,1964; 25exs.,17.VII.1975,五十嵐,1976] (8exs.,14.VII.1939,etc.), ひよどり駅北方 [VIII.1985,稲尾豊,1991], 1992], 夢野台中学校 [VIII.1960,広瀬重夫,1991], トウエンティックロス登山道 [VII.1991,友田規隆,丹生山系兵庫ゴルフ場付近 [19.VII.1990,木村忠雄,1991], 丹生山系天保池畔 [1ex.,19.VIII.1990,木村忠雄,1991], 山田町藍那山中 [23.VIII.1989,土屋忠信,1992].

多可郡中町

牧野 [1ex.,6.VIII.1974,H.Fujiwara leg.], 靴屋ダム [28.VII.1991,寺島豊].

姫路市

書写山 [1.VIII.1976,木村,1976].

神崎郡

笠形山 [4.VIII.1960,西脇,1965], 長谷村栃原, 段ヶ峰高原 [1ex.,15.VIII.1950,西村,1951; 1ex.,4.VIII.1963,木元,日浦,1965].

神崎郡大河内町

砥峰 [1ex.,23.IV.1976,H.Fujiwara].

佐用郡南光町

船越山 [京都昆虫同好会,1956,朝日新聞,1984; 20.

V.1991,内海功一,1991].

宍粟郡山崎町

川戸 [永瀬幸一,1992].

宍粟郡一宮町

三方村国有林 [VIII.1952,松井俊公].

宍粟郡波賀町

赤西 [1ex.,30.VII.1972,Hatanaka leg.], 赤西林道 [2.IV.1990,小倉,1991], 赤西溪谷 [内藤,1999].

氷上郡柏原町

篠ヶ峰 [山本,1952], 篠ヶ峰,石戸山,高見城山,小倉 [山本,1958], 柏原町小倉,新井,高見山,石戸 [仲井,1976].

氷上郡膏垣町

粟鹿峰 [仲田,1976].

氷上郡山南町

阿草,南中,和田,谷村,富田,若林,春日野東中 [仲井,1976], 和田 [1ex.,VII.1972,Kuramoto leg.], 富田 [1ex.,8.VIII.1974,Kuramoto leg.], 若林 [1ex.,27.VIII.1974,H.Fujiwara leg.], 小新居 [1ex.,23.VIII.1976,H.Fujiwara leg.], 五ヶ野 [1ex.,13.IX.1990] [高橋,1991], [相坂,1992].

氷上郡氷上町

谷村 [1ex.,VIII.1950,Kuramoto leg.], 佐野 [1ex.,24.VII.1975,Kuramoto leg.].

養父郡和田山町

糸井溪谷 [高橋,1977].

養父郡

杉ヶ沢 [(天滝と轟の間) Abe leg.,奥谷,1973].